

[BOSAI TIDBITS]

BOSAI+ Tidbits



日本地質学会「地質マンガ」のページのもくじより(一部)。地質学のいろいろな話題を4コママンガにして、地質学の基本はもとより、地質学者の“日常”を楽しく紹介。学会サイトのコンテンツとして異彩を放っている(画像クリックで拡大表示)

●高校地理 必修化を機に 地質学入門マンガをワンクリック閲覧 お固い(?)学会サイトの異色コンテンツ——「地質マンガ」

2022年4月から、高校地理が必修化し、また、選択科目として「地理探求」もできる。地理を学ぶことは、防災啓発のうえでも重要であることは言うまでもない。

NHKテレビのまち歩き番組「ブラタモリ」でも、タモリ氏が火山や断層に詳しく、しばしば地理・地質の話題と防災が関連づけられて話題にのぼることから、国土地理院が同番組に感謝状を贈呈している。そこで——というわけでもないが、ここで日本地質学会のホームページにあって、地質というお固い学会を紹介するコンテンツとしては異彩を放つ「地質マンガ」を紹介しよう。

例えば、地質学では、「露頭」や「巡検」などは専門用語であって、タダの露頭や巡検ではない。「露頭」は、野外において地層・岩石が露出している場所を意味する。海岸の崖、河床など自然な場所のほか、林道などの切り割り、工事現場など人工的に露出している場所も含み、鉱山では鉱物が露出している面を指すこともある。地質学の野外調査では露頭を観察することが中心となり、露頭からは地層の上下関係、化石や鉱物の産状をはじめとする様々な地質についての情報を得ることができる。そのため、地質学者たちは海岸や沢、林道に沿って地質調査(フィールドワーク)を行うのだ。

また、よく耳にするフィールドワークは、ある調査対象について学術研究をする際に、そのテーマに即した場所(現地)を実際に訪れ、その対象を直接観察し、関係者には聞き取り調査やアンケート調査を行い、現地での史料・資料の採取を行うなど、学術的に客観的な成果を挙げるための調査技法を言い、これを地学や地理学では「巡検」と称している。したがって、「地質巡検」とは、地表に顔を出している地層や岩体(露頭)を実際に見に行く野外実習のことであり、「露頭に迷う」とは意味が違う(冗談デス)。

「地質マンガ」には「ロトウに迷う」というタイトルもあるほか、地質学入門的な勉強ができるマンガ、地質学者の日常(研究生生活)を知ることができるマンガもあるので、後学のためにご一覧をオススメする(家族・知り合いに高校生がいたら「防災意識高い系大人」からの推薦マンガとしてお薦めしてください)。

[>>日本地質学会:「地質マンガ」](#)

●災害備蓄に食用コオロギ使用缶入りパン 徳島県美馬市と協定



応援協定締結式で行われた「C. TRIAカレー」の炊き出し演習。同時に市に贈呈されたコオロギを使用した缶入りパンは美馬ファームおよび美馬研究所に配備、災害時の非常食として使用する(画像クリックで拡大表示)

徳島県美馬市が、徳島大学発のベンチャー企業、食用コオロギに関連する品種改良・生産・原料加工・商品開発・販売を一貫して行う株式会社グリラス(徳島県鳴門市)との間で災害時応援協定を締結した。同協定は、グリラスの食用コオロギ生産拠点である美馬ファームと、研究拠点である美馬研究所に併設する市の指定避難所における、災害時のグリラス職員による避難所の開設・運営の協力と、食用コオロギを使用した自社商品「C. TRIA(シートリア)」の提供を約束するもの。応援協定締結式では「C. TRIAカレー」の炊き出し演習が行われ、また、コオロギを使用した缶入りパンが贈呈された。

世界的に見ると、急激な人口増加に伴う飢餓や栄養不良といった食料問題への対応が喫緊の課題で、とくに動物性タンパク質の不足は顕著で、その解決策としてFAO(国際連合食糧農業機関)は昆虫食を推奨している。昆虫は既存の畜産と比べて、1kgのタンパク質の生成に必要な餌や水の量が圧倒的に少ないため、限りある資源の有効活用が可能。加えて温室効果ガスの排出量も少なく、環境負荷の低いタンパク源となる。

[>>株式会社グリラス:徳島県美馬市と災害時応援協定を締結](#)

わが国最大級の
防災イベントと
災害史カレンダー

[>>随時更新……ここをクリック!](#)

Bosai Plus

防災カレンダー